

窪川高校12~2月の活動紹介

★お野祭市場

11日に関西研修の一環として1年生が大阪・天神橋筋商店街で「お野祭市場」を開催しました。ラスト10分で無事完売。今年もJ A四万十・天神橋筋商店街の皆さまにご協力いただき開催することができました。

12月



★夢・志発表会

30日に総合的な探究の時間、地域課題研究の成果発表として、窪川四万十会館で発表会が行われました。今年度は夏休みに韓国短期留学をした生徒の成果報告も行われ、1年間の学習の成果を発表しました。

1月



★3年生卒業LIVE

4日に音楽部が3年生のために卒業ライブを企画！3年生のピアノの連弾や歌、1・2年生のバンド演奏など、盛りだくさんの内容で学年を越えて音楽で盛り上がりました。

2月



先輩方が大事に守ってきたもの

国の重要無形民俗文化財に指定されている「土佐の神楽」。高知県内の山間部に受け継がれてきた九つの神楽の一つが、十和地域に伝わる「幡多神楽」だ。

地域の五穀豊穡や無病息災を祈り、祝事に舞われてきた。幡多神楽保存会の竹内朗さんは「本来は見る人がおろうがおるまいが、お宮に奉納するのが基本と思うちゅうけんね、神楽というものは」と話す。

幡多神楽の始まりは江戸末期の安政元(1854)年。久保川の神職・平野清記が梶原の津野山神楽を伝授され、演目を加えて星神社(十川)に奉納したのが起源とされる。

舞の基本は、東西南北と中央の「五方」に移動し、拝みながら舞う幣舞。宝物の剣を探す「金山彦の舞」、豊年の舞とも呼ばれる「稲荷大国の舞」など、全18演目がある。すべて舞うとおよそ6時間に及ぶが、近年では全演目を披露することはほとんどないという。

竹内さんが保存会に入ったのは20代のころ。消防団の先輩に誘われたのがきっかけだった。本業の大工仕事を終

えるとお宮に集まり、宵闇の豆電球の下で練習を重ねた。「二礼二拍手のお参りから始めてね。練習うても、そんなに教えてもらわなかった」。先輩たちの舞を見て覚えていったという。

ある時は「次、いってこい」と、ぶっつけ本番で舞台に立たされたこともあった。「『十日の練習より一日の本番が大事』と言われて。今はそういうことはないけど」と笑う。

幡多神楽を守り継いで約40年になる。「舞に関してはすべて大事と言えば大事やけど、静と動の動きのキレよね。同じ舞をしても、人によって違いがいろいろあるけんね」。

現在、保存会のメンバーは30~60代の8人。近年は高知市など町外のイベントで舞を披露する機会も増えた。「先輩方が大事に守ってきたもの。その道に携わった以上、引き継ぐ側としてできることはせないかん」と竹内さん。

5月3日には、1年で「一番大事」という節句公演が星神社で行われる。



竹内朗さん
(幡多神楽保存会会長)

町にはこんなwazaも

陸上で活躍中！ 谷脇 愛菜さん 窪川小学校5年

「窪川JRC」に所属し、窪川ロードレース大会(小学4・5・6年生女子の部、2km)で優勝するなど活躍している。「練習より試合が楽しい。100メートルの短距離走も、もっと速くなりたいです」と目標に向かっていく。

こだわりの「技」できらりと光る四万十町の人々を紹介します。ちよいwaza!!は随時募集中!



未来のwaza!!



高知県立窪川高等学校

Kochi Prefectural Kubokawa High School

〒786-0012 高知県高岡郡四万十町北琴平町6-1

TEL(0880)22-1215・22-1216

E-mail:320118@ken.pref.kochi.lg.jp



窪高ホームページ



KUBOKAWA_HIGH_SCHOOL

このコーナーでは、県立窪川高校、県立四万十高校、町営塾「じゆうく。」での生徒たちの活動を月替わりで紹介しています。